日本山岳会
越後支部報

第　22　号
平成30年６月15日
発　行　公益社団法人日本山岳会越後支部
発行者　遠藤 家之進正和
新潟県新潟市南区鷲ノ木新田1049
TEL・FAX 025－362－5004
広報委員長　佐久間雅義

私の一枚

カモシカのお出迎え

３月末、久しぶりに二王子岳へ登った時、林道を歩きながら田んぼの畔にフキノトウを探し、ふと見上げるとカモシカと目が合い、シャッターを切るまで動かないでと願いながら撮った一枚です。その日は快晴に恵まれ山頂からは遠くの山々までよく見えました。

撮影　小泉　良夫

総会を終えて

支部長　遠藤　家之進正和

日本山岳会本部の遭難対策規程の改定に伴い、越後支部会員の安全意識と遭難防止を主体に、登山計画書の提出について検討してきた内容を提案し、討議の結果了承を得ました。基本である登山計画書を作成する事は、皆さん重々承知と思いますが、実態は多少疎かにしているのが実情ではないかと推察されます。

近時の相次ぐ事故発生に、改めて会員個々の意識を高め、実施することとなりました。皆さんのご協力をお願いします。

詳細について、本号の事務局からのお知らせ欄で説明しています。

公募登山の開催、高頭祭・たいまつ登山、親子登山の実施、よりあいの集いと多くの行事が予定されています。無事故で楽しみ、推進しようと意識を新たにしました。

記念講演は、支部名誉会員である平田大六氏から、自作のイラストを配布して「山・人・酒パート2」と題して、岳友であった五十嵐力氏の山への取り組み、大興安嶺に遠征した今西錦司氏が、隊員をどう動かしたかについて語り、貯めるという習性が無い猿には酒は造れないのではという猿酒にちなんだ話をユーモラスに語っていただいた。

『ゆっくり登って3時間　新潟の山歩き50選』に掲載された三角点山についての概要を説明された。

翌日は、全国的にも珍しい名前の三角点山を登り、山頂に標識を設置する儀式を行い、新緑の里山を楽しんだ総会でした。

山靴シリーズ

JAC裏磐梯イエローフォールスノートレックに参加して

多田　政雄

2月18日～19日にかけてJACの山行委員会主催の裏磐梯イエローフォールスノートレックが福島支部の御協力のもと開かれ、越後支部から遠藤俊一さんと私が参加しました。前日は県山協冬山安全登山講習会が新発田市東赤谷の滝谷集落で開かれ2人で参加しました。雪山登山の概要・雪崩及び最近の山道具・雪山登山に対する話題等の講義があり充実した意義ある時間を過ごしました。翌朝荒天の中を一路裏磐梯へ遠藤さんの車で移動しました。全員集合後、福

島支部の花井さんが自然探勝路のコース説明をして五色沼散策に出発。池入口でスノーシューを装着。我々越後支部２人だけがワカンでした。時々地吹雪で視界が途切れがちでした。もっとも25人も歩くとつぼ足でも歩けそうでした。外はマイナス10℃程なので乾いた軽い雪でした。左の沼は真白に凍てつき、右の沼は満々と水をたたえており不思議でしたが、これは沼に温泉が湧き出ている為だそうです。江花ガイドよりツルアジサイやウリハダカエデ、ハンノキ、ミズキ、レイホウ、マンサク、などの説明がありました。次に行った青沼は、カルシウムと硫酸イオンを多く含むため青く見え、夏にはウカミカマゴケが一面に出るそうです。次のルリ沼は、夏にヨシが生い茂り、沼が見えなくなるので展望台を作ったそうです。試験的にヨシを刈り払っているが、自然保護の問題が出ているそうです。弁天沼まで来ましたが、これ以上は時間的に無理なので引き返しました。風もなく穏やかで時々薄日もさし始めました。

翌日は晴天のもとマイナス10℃の誰もいない裏磐梯スキー場で本日参加の福島支部の方４人の紹介がありました。第１リフトから第２リフトと乗り継ぎ、リフトを降りたところで記念写真を撮り、スノーシューとワカンを履き９時30分に出発。10分位で銅沼に到着です。沼は雪で埋まっていました。その後爆裂火口付近の山腹斜面を目指しました。新雪に輝く磐梯山、櫛ヶ峰が眩しくみえ、風もなく最高の天気となりました。進行方向右側に噴気孔があり、ガスが立ち上がっており硫黄の臭いも漂ってきて、活火山であることを再認識させられました。リフト終点からゆっくり歩き１時間程でイエローフォールに到着。吹雪のため、滝の氷が雪で埋まり、少し狭くなってるとの事ですが、硫黄分と鉄分で黄色になった滝は周りの白色に浮かび上がり幻想的であり見事な氷瀑でした。写真を撮り11時頃下山開始。各自新雪にスノーシューのシュプールを残しました。澄み切った青空にパウダースノーでキュキュと心地良い音を出し快適で申し分ない歩きでした。１時過ぎリーダーの征矢さんの挨拶の後解散となりました。参加者は現地合わせて30名で寒波と大雪で大変でしたが登山目的以外の雪上を歩くのは初めての経験でしたが、山の違った一面を見ることが出来て非常に興味深く面白いものでした。山行委員会・征矢さん有り難うございました。

峠シリーズ

佐渡島の峠・牛恋峠大倉白庭

藤井与嗣明

大倉白庭は大佐渡山系の北に位置し、内浦（両津湾側北五十里から歌見集落間）の馬首、北松ケ崎集落と外海府（小田集落以北）大倉集落とを結ぶ越路である。佐渡では単純に主稜線となるトネ（奥山）を越えることから、大佐渡・小佐渡山系共に峠ではなく越と呼んでいる。また、この大倉越が芝生場であるところから、白庭と地元の古老は話されていた。

佐渡は和牛・馬の生産地であったことから、この大倉白庭も牛・馬が放牧されていた。馬は昭和30年代半ばになると、林道の開設から馬車はトラックに代わり、平成10年代半ばには畜産農家の高齢化、担い手の減少による畜産離れ、事故防止等から行政による効率の良い放牧場への集約、自然放牧はわずかにドンデン山で見られるのみで、放牧の終えたこの大倉白庭も芝生場が衰退してウシノケグサやウマノアシガタ、ツリガネニンジン、ノコンギク、ススキからノイバラやモミジイチゴ、サワフタギ、タニウツギ、ヒロハヘビノボラズ、エゾアジサイなど低木林へとブッシュの植生移行が著しい。同ルートにおける山野草も他の佐渡の山と変わりなく、春はオオミスミソウやフクジュソウからキクザキイチゲ、カタクリやシラネアオイ、オオイワカガミ、ニリンソウや、湿地にはザゼンソウなどがみられる。また「上の平湿原」があって、平成元年に新潟県自然環境保全地域に指定されている。

この大倉白庭へは馬首・北松ケ崎からのルートが一般的で、同ルートには大日如来や馬頭観音などの石仏があり、牛・馬の供養や息災祈願のため畜生道として往時をしのぶことができる。また、不動明王と追分の大日如来の石仏には「巡礼の道」と刻まれているのは関集落（関越）への道標である。

では、ここで佐渡山岳会創設期から戦後佐渡山岳会会長を務め、日本山岳会会員でもあった小菅任助（１９０９～１９８５）さんから、お元気な頃に「遠い日の追憶の栞」として「冬の大倉越」のお手紙をいただいているので要約して紹介したい。（以下のとおり）

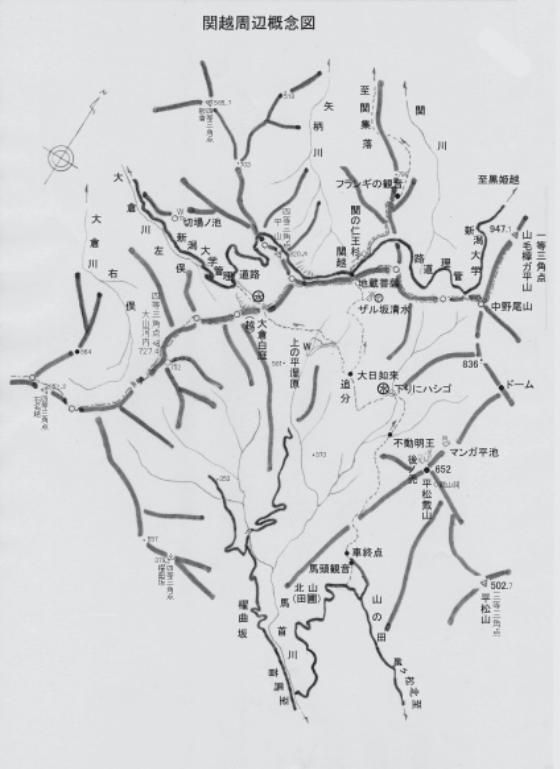
『何しろ昭和５年・６年というのは、佐

渡の冬山登山の最初の頃だったと思います。私が昭和４年新卒で、当時加茂村の馬首小学校に奉職し、そこでスキーが学校の物置に３台か４台あるのを見つけ、なぜそんなものが有るのか訳を調べたところ、当時学区内の和木で「和木川」という銘酒を醸造しておられた、泉出身の川上賢吉さん（号・喚濤・俳諧師）とそのセガレ可一（かいち）さんとの話で分かったのですが、それは川上家の寄贈であった。その動機は大正末期か昭和の初頭に佐渡の郡長に中村という方がおられて、その人は柏崎の方で、甥御さんが柏崎の中学校を出がけで、一時馬首小学校の代用教員として来ていたことがあった。ところで、その先生は越後の人でスキーもできる由、その在職中冬季間に内浦と外海府との間に死に生きがあると、そのたびに親戚の人が雪の山越えを行き来する。何しろ厳冬の冬山の積雪の中を集落から20人、30人の人が出て踏みつけて、峠（越）まで送る。向こうから、また同様の人数で迎えが来て、峠でその１人か２人の人の受け渡しをするという村を挙（あげ）ての大騒動であった。これを見て中村先生「スキーでやれば何でもない、夏のうちに柴木のウラを刈り払って、スキー路を作っておけば全く訳なく行き来きできる」と、そして「それで地域の難題が解決できるというならば」という事で、川上さんがスキーの寄贈におよんだ。その中村先生はスキーの手ほどきをするか、しないうちに徴兵検査で帰郷されてしまって、スキーは遂に物置に忘れ去られてしまった。「そこで君が見つけたのなら、使命が君に廻ってきたのだ。スキーを地域の青年や子供に指導して欲しい」という事になった訳なのです。

その冬、夢中でスキーを稽古して、明けて昭和５年２月１日に馬首から大倉越へ、そして小田、大倉へ厳冬の大佐渡山脈の北部を横断して、当時の青年学校の生徒であった畠山喜一君と２人で往復した事があります。これが当時の「新佐渡新聞」にデカデカと報道されて少々赤面した事を覚えています。』

なお、今は林道をトネ近くまで車で入ることが可能となったが、昭和９年（１９３４年）に海府の難所とされた鹿の浦トンネル（前相川町南片辺～戸中集落間）開通までは、峠越が唯一の通行手段であった。また、「牛恋峠」は『佐渡の民話・相川外海府の伝説と昔話』（昭和53年発行）並びに第四銀行発刊『越佐みち紀行』（昭和61年発行）掲載の「おソマと牛王丸」の民話によった。大倉白庭は当時周辺集落への大きな役割を担ってきた。

地図・２万５千分の１『小田』、５万分の１『鷲崎』



スノートレッキング同好会　報告

松井　潤次

２月25日(日)に小千谷市最高峰の金倉山（５８１ｍ）で山行を実施した。越後支部会員７名を含む総勢20名の参加を得て、当日は小千谷市総合体育館に集合。５台の車に分乗して登山口の小栗山木喰観音堂先から各自、カンジキ・スノーシューを履き、地元会員の先導で曇り空のなか出発した。雪に覆われた養鯉池を捲いて棚田から雑木林に続く急斜面を一気に登り尾根に上がる。雪面は締まっており皆、順調に登高する。尾根は穏やかな登りとなるが右側は急傾斜となっており、旧山古志村が展望される。小ピーク（５６１ｍ）に着くと一気に視界が開け、眼前に頂上展望台、信濃川や小千谷市街地が遠望できる。今日は、小千谷市風船一揆のイベントが行われており、飛行中の気球が数機、視界に入り歓声があがる。小休止の後、登山口より１時間半の行程で金倉山の頂上に全員到着。早速、雪のテーブルを設え、主催者準備のきのこ汁が用意された。青空も覗き、風もなく快適な昼食タイムとなった。県境の山並みはガスが掛

東山連峰をバックに

かって遠望は利かないが、小千谷市西山山系、信濃川、蓬平温泉、鋸山など長岡周辺の山々を眺望することができた。

下山は往路を辿り、45分で登山口に到着。総合体育館に戻り無事解散となった。他団体の方々とも交流を深めることができた雪の里山は、有意義な一日となった。

新会員になって

小池　信吉

藤島蔵書の整理に参加し、遠藤支部長はじめ会員の皆さんと知り合ったのが入会のきっかけでした。健康を意識して、45歳の時から登山を始めて、山の自然、花々の素晴らしさ、山頂での達成感等を知りました。

登山中に2回日本山岳会員とお会いしたことがあります。とても親切に山の情報を教えていただきました。この時から憧れの会となったようです。安全で楽しい山登りをモットーとしておりますので、知識と経験が豊富な越後支部の皆さんから学びたいと思っております。

村上市（旧荒川町）在住で、毎日高坪山と薬師嶽を眺めながら、趣味の畑を少々耕しております。近くへ来られた際は是非お寄り下さい。

まだ登ったことのない山が沢山ありますので、体力の続くかぎり登りたいものです。いつも良く整備された登山道を歩いていることに感謝をしております。これからは登山道等の自然環境保護にも力を入れてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

知野　勇人

私が山を始めようとN山岳会に入会したのは、30歳を過ぎてからです。右も左もわからない30過ぎの遅まきの新人は会の先輩方から温かくも厳しく鍛えられ、それなりの経験も積んで山を楽しむことが出来るようになりました。40歳を過ぎて10年近く山を離れた期間がありました。その後、山へ行けるようになったものの気後れが先に立ち逡巡していたのですが、先輩方は以前と変わらずに温かく接してくれました。今、再び自分なりに山を楽しむことができるのは先輩方のおかげです。そろそろ先輩方に恩返しをしなければと思っていた矢先に、歴史と伝統のある越後支部への入会のお話をいただきました。越後支部の大先輩の方々に比べれば、まだまだ若輩ではありますが、これを機会に越後支部の活性化に少しでも貢献することで恩返しに変えたいと思っています。

靴音・よりあいの集い

「五頭山」登山のお知らせ

集会委員会

秋の山行は、弘法大師によって開山、五頭山信仰が盛んに行われたと伝えられる山。五頭温泉郷としても知名度の高い山域です。深まる秋を楽しみましょう。

日　程　平成30年10月20日(土)

集　合　午前8時30分
村杉・どんぐりの森駐車場集合
小雨決行・大雨中止

行　程　三ノ峰コース―五頭山山頂
（約2時間30分）

装　備　日帰り登山装備

費　用　無　料

申込み　10月10日(水)までに　遠山 實
0254-73-0467(夜)

※支部会員勧誘のため会員以外の参加も歓迎します。

平成30年度公募登山のお知らせ

事業委員会　小山　一夫

平成26年から公募登山を開催し、今年で5年目を迎えることが出来ました。支部会員の皆様のご協力に感謝いたします。

今年の計画は昨年と同じく3回の公募登山を計画しました。昨年の紅葉シーズンに計画し悪天候で中止した「白鳥山」を残雪と山野草美しい時期の6月開催します。10月に大網峠が作られさびれた古道、今はハイカーもほとんど歩かない「塩の道古道」を計画しました。

昨年も集会委員会と共催で実施し、7月初旬に実施し、豪雨で計画を大幅に変更した。「上高地集会」を再度計画しました。昨年は上高地の散策しかできませんでしたが、昨年と同じ山域を中心にあらたに「美ヶ原散策」実施します。「美ヶ原・焼岳」山容が違う二つの「100名山」を堪能して頂きたいと思います。宿泊2回目ですが、支部会員と公募登山参加者の交流を大いに深めたいと思います。

開催日時は次のとおりです。

6月10日　白鳥山
コース　坂田峠より白鳥山下山は山姥コース下山

10月14日　「塩の道古道」
コース　鳥越峠より戸土・大網部落

9月8日～9日　「上高地集会」
コース　8日　美ヶ原散策・上高地「日本山岳会山岳研究所」宿泊
9日　「焼岳」「徳本峠」登山

支部の会員皆様とご協力と参加をお願いします

第2回「子ども登山教室」に向けて

自然保護委員会　鶴本　修一

15名の参加児童と7名の保護者、運営スタッフ14名を合わせて総勢36名で実施した第1回「子ども登山教室」から1年。

今年度は第2回目の実施に向けて、既に2回の実行委員会を開催し、協議・検討を重ねながら、実施計画を作成いたしました。

そこには、初回の成果と課題（「第1回活動記録集」）等を踏まえ、この事業の充実に向けた改善策を計画の中に位置付けることができました。その主な点を記します。

○共催団体の位置づけ

新潟県山岳協会からの応援をいただくことができました。実行委員会に入ってもらい、運営面でも協力をいただきます。

○子ども登山教室における指導法のマニュアル化（安全登山や自然観察等を含む）

・山歩きの基本（服装・荷物の詰め方・歩き方の基本等）

・参加者の把握と留意点（子どもの把握・グループ編成・安全の確保等）

・事故発生時の連絡体制と対処法

・山の自然観察について（標高に応じて）

〈8月11日(土)の「山の日」に実施〉

今回は、糸魚川世界ジオパークの「蓮華ジオサイト」エリアの、蓮華の森自然歩道を子どもたちと探検します。標高は1500m前後となります。詳細は「チラシ」に。

ガイドブックに載っていない古里の山

風谷山（ふうやさん）521m

諏訪　惠一

風谷山は、長岡市街から東方に見える東山連峰最高峰鋸山の前に聳える独立峰で、加賀白山を開いたと伝えられる泰澄が天平年中に開闢し、薬師如来を作ってこの山に安置したと伝えられている。現在でも、山頂には風谷社（薬師堂跡）の石の祠がある。また、登山口から登山道に入らず先に進むと、そそり立つ岩に不動明王が祀られ、豊富な水量と落差で怖いほどの飛沫を上げる不動滝があり、傍らには御堂もある。また、登山道には一合ごとに石仏が置かれ、そのほとんどが急峻であることからも修験の山であったことがうかがわれる。

登山コースは、国道352号を市街地から東に進み、鋸山花立峠コース駐車場の約1km手前祓橋左側に林道の入り口があり、ここに車を停め、しばらく歩くと薬師如来の石碑と石仏と共に風谷山登山口の案内標識があり、登山道となる。二合目までは緩やかな登りだが、その後は急坂の連続となり、1時間ほどで登頂となる。山頂からは、東に鋸山、西に旧長岡市内を一望でき、ニホンカモシカに遭遇することもある。

なお、山頂にある長岡ハイキングクラブ「風谷寮」は、普段は解放されておらず、利用については会事務局に問い合わせられたい。参考文献：越後・佐渡の山岳修験（鈴木昭英著）

五十嵐　力（ちから）さんの追悼

日本山岳会会員（5804）

平田　大六

五十嵐　力さん（№5143）が、2018年4月1日になくなられました。その大きな「足跡」をふり返り、ご冥福をお祈りいたします。

出生は1936年7月23日です。幼年の頃、中国地方の山へご尊父に連れられて初めて入山されたということです。本格的な山登りは1957年頃からで、翌年58年の秋には、中条山の会を立ち上げ、主宰されました。

会の活動は活発でした。奥胎内の踏査研究に取り組まれ、また厳冬期の、鷲ケ巣山・光兎山・頼母木山・杁差岳の記録が残っています。（注1）。

日本山岳会入会は1960年。早くから藤島玄支部長の薫陶を受けていました。「なにもしない支部」時代から支部委員をされていたのです。

1965年の越後支部あげての大事業の「越後の国境調査」（注2）で、五十嵐さんは県最北部を担当され、二つの大きな指摘をされています。ひとつは新潟県の極北が9km余りずれていたことの発見です。もうひとつは当時未開であった日本国の登山としての紹介です。その先見性に敬服しています。

支部の図書委員会を担当され、2014年から「藤島蔵書」の本格的な整理指揮にあたられました。この本は藤島玄さんの没後、ご遺族の方から関川村に寄贈されたもので、数千冊に及ぶものです。2015年に行われた第1次の完了報告会での、五十嵐さんのご説明は情熱的でした。

郷土史研究にも熱心でした。12～13世紀に、地元「奥山庄」で活躍した武将城氏を確かめ、その部下の弓の名射手、美女「板額御前」を地域に紹介したのは、五十嵐さんです。

書画のたしなみもありました。新居客間の新しい障子戸いっぱいに、山岳名などを筆で黒々と埋め尽くしておられました。1960年に結婚された喜久子夫人は、

しょうのないダダッ子を眺めているような風情でしたが。

五十嵐さんは、１９４１年に奥胎内の山中に墜落した軍用機の事故に興味を持たれ、山中に消えた飛行士の浅野力中尉慰霊碑建立を提案され、１９７７年に実現されました。

五十嵐さんが本格的に山を始められた頃から、私はお付き合いをさせて頂いておりました。あなたがその半生記を自著された「山のはなし」（注３）は今も、藤島蔵書の書架に輝いています。安らかにおやすみください。

（注１）中条山の会会報「さんぞく」（１９５９年～）

（注２）日本山岳会越後支部「越後山岳第６号（越後の国境踏査報告書）」（１９６８年）

（注３）五十嵐力「山のはなし」（１９７７年）

事務局からのお知らせ

安全登山と活動を活発にして　会員を拡大しよう!!

●平成30年越後支部総会

５月26日、岩船郡関川村「ホテル　あらかわ荘」で行われた平成30年度越後支部総会は、出席者53名・委任状１０７名（総会議決率85・６％）で、すべての議案が承認されました。

本部遭難対策規程の改定に伴い、すべての山行に登山計画書の提出が義務付けられ、越後支部も安全委員会を設置して、さらに安全登山をめざすことになりました。また、「子ども登山教室」など、より活動を活発化して会員拡大をめざすことが確認されました。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

●個人山行にも山行届け出必要　すべての山行に登山計画書の提出を

本部の遭難対策規程（２０１７年12月25日施行）に基づき、すべての山行計画について計画書の提出が義務づけられることなった。越後支部では、安全委員会が「計画書受理機関」となって実施する。ポイントは、下記のとおり。

１　支部会員は、山行において必ず登山計画書を作成し安全委員会へ提出する。

【補足説明】

①登山計画書の様式は任意とする。ただし、山行リーダー及び留守本部担当者（２名以上）の氏名、連絡先及び下山予定日は必ず記載する。留守本部は、支部山行では原則として三役から２名を指定。個人山行は、会員の指名する者１名と担当理事とする。

②安全委員会への提出は、会員の住居地区により担当理事に提出し、担当理事は事務局を経て本部遭難対策委員会へ提出する。

・上越地区：立入理事

・中越地区：桐生副支部長

・下越及び会津地区：佐久間理事

・新潟及び佐渡地区：小山理事

③この規程は、当然のことながら日本山岳会越後支部会員としてのものであり、地元山岳会などの会員として登山活動する場合は、所属山岳会のルールに従い対応する。

２　登山計画書受理機関として、越後支部では安全委員会を設置する。

【補足説明】

①安全委員会のメンバーは、桐生副支部長を委員長として、上記１の補足説明②のメンバーに事務局長を加えたものとする。

３　登山計画書受理機関は、適切なチェックを行い遭難対策委員会へ計画書を提出する。

●越後支部の主要行事

越後支部の主要行事は下記のとおりです。皆様の積極的な参加お願いいたします。

◆「山の日」記念事業

・第61回高頭祭及び第65回弥彦たいまつ登山祭　７月25日(水)弥彦山

・日本山岳会野澤副会長と日山協八木原会長が来賓参加され記念講演があります。

◆第４回靴音・よりあいの集い

６月16日(土)～17日(日)　湯沢町・「高野屋」で講演、飯士山登山

◆平成30年度越後支部年次晩餐会

12月８日(土)　新潟市・新潟東映ホテル

支部会員動向（２０１８年２月～５月）

１　物故会員

袖山　要一（１０３４９）
新潟市西区　３月逝去

五十嵐　力（５１４３）
胎内市　４月逝去

２　退会者

桑原　一郎（１０２３１）　魚沼市

浜田　啓子（１２２７７）　弥彦村

３　支部会員総数（２０１８年５月５日現在）

１８７名

編集後記

○県内のＧＷにおける山岳遭難について『今年は１０００ｍ未満の低山の遭難が目立つ。低山ということで安易に山に向かったのではないか』との記事を目にし、私達も事前の準備を万全にし、事故のない安全な登山を心掛けたいものです。

○県内には、ガイドブックには紹介されていないが地元の人達に愛されている山が数多くあります。そこで新しく『ガイドブックに載っていない古里の山』を紹介します。皆様の地域のとっておきの山をお知らせください。（編集：井口　光利）